

# 65 正法寺多層塔



指 定 市有形文化財 平成10年12月28日  
 所在地 根々井  
 所有者 正法寺



本塔は根井行親ねの い ゆきちかの妻が異郷の地に戦死した夫の供養のために建立したものと伝えられるもので、笠部の軒が厚く二重の切り込みを設け極部すいを示している。また軒反り中央部がほとんど平行で、軒端に向かってゆっくりとはねあげ、軒端でわずかにその反りを強めている。全体に安定感があり、鎌倉時代の造立様式を今日に伝える遺例で、信州には数少ない層塔の一つとして大変貴重である。

石質構造 輝石安山岩（浅間焼石）  
 五層（現状は四層、第五層目は五輪塔火輪部2基を重ねる）  
 銘 記 金剛界四仏種字やけんぼを薬研彫り（一層目軸部四面）  
 法 量 総高306.0cm（但し第五層屋根部を除く）